

薩摩鐔 ― 小田系の鐔の寄贈を受けて ―

切原 勇 人

武 小 卷

はじめに

令和三年度に、薩摩鐔研究家松元久雄氏（故人）のコレクション三八点が寄贈された。これらは、江戸時代後期に鹿児島市谷山地区に居住し薩摩鐔の鐔師として活躍した小田直香^{（なぶか）}を代表とする小田系の鐔である。当館は、薩摩刀を多数収集しているが、薩摩鐔の収集は数少ない中で、このたびの寄贈は、多くの県民の方々に薩摩鐔を見ていただける機会が増えることになり、大変ありがたい。そこで、今回の薩摩鐔の受入を機会に、薩摩鐔の概略と今回収蔵した鐔の内容に加え、実物大の姿を紹介していきたいと思う。なお、令和七年三月に三八点すべて鹿児島市指定文化財の指定を受けた。

一 薩摩鐔とは

（一） 形

薩摩鐔の形状の特徴は、総じて小型であることであるが、これは薩摩の兵法示現流の影響^{（い）}だといわれる。示現流は、一撃必殺を重んじ、返し技というものがなく、敵刃を防ぐための鐔は、不要であることから、同派の遣い手たちの多くは、好んで小鐔を用いた。

ただし、今回寄贈の鐔は、小型ではない。

（二） 材料

鉄鐔の材料として、全国的に、古鋤がよく用いられたが、薩摩では用いなかったという^{（2）}。薩摩鐔工の秘伝書（正徳の頃の写し・関東大震災で焼失）には、「薩摩においては、鋤や鍬は土中にあつて不浄に触れるから、鐔の材料に用いてはならない。折れた刀、焼けた刀、鉄砲等を鍛えて作るのが良い。」と記されていたといわれる^{（3）}。また、薩摩では赤銅鐔も多い。薩摩には金山があつたため、薩摩の赤銅は金の含有量が多く、きれいな紫黒色をしている。

（三） 流派

薩摩金工界の二大流派は、小田系と知識系で、中でも小田直香は、薩摩鐔の代表工といわれ、芸術的香りの高い作品を生みだしている。一方の知識派は、全盛期を築いた（五代）知識兼置をはじめとして、多くの門人がおり、鐔の図柄も小田派に比べ多種多様で、薩摩金工界第一の集団となっている。また、藩内居住の金工の他に、島津家では、石黒政美（二七七四～不明）や斎藤富随（一七九六～不明）のような江戸金工を召し抱えていた。

二 薩摩鐔の蒐集家の歴史

蒐集家としては、まず、明治後期に鹿児島県知事であつた千頭清臣^{（ちがみきよおみ）}（一八五六～一九一六）氏が挙げられる。彼は、高知県出身で東京大学卒業後イギリス

に留学した。帰国後、鹿児島県高等中学造士館・第二高等学校教授、内務省書記官、栃木、宮城、新潟等の知事を歴任した後、明治三十三年（一九〇〇）年九月八日鹿児島県知事に着任する。任期は、同四十一年（一九〇七）年十二月二十七日まで。鹿児島にきた千頭は、薩摩鐔の魅力に取り憑かれたかのように、鹿児島の名作と言われる鐔のほとんどを蒐集したというが、数は不明である。

そして、その千頭に影響を受けた人物が、ドイツ人のモスレ氏である。彼は、東京で茂須礼商会を経営し、ドイツの横浜名誉領事を務め、鐔の収集家でもあった。彼が、薩摩鐔に初めて出会ったのは、日露戦争（一九〇四～一九〇五）後、千頭鹿児島知事を訪ねた時である。知事室に飾られた薩摩鐔の魅力に魅せられたモスレ氏は、帰京後、その収集を始めた。すると、モスレ氏の動きに触発された人物が現れた。モスレ氏の競争相手・鐔愛好家ボーチャー氏である。ボーチャー氏も蒐集を始めると、またたく間に薩摩鐔ブームが到来したのである。

しかし、大正五（一九一六）年に千頭氏が亡くなると、そのコレクションが散逸してしまった。そこで、ロシア大使館のセキン書記官（鐔蒐集家）が、そのほとんどを買い戻したが、彼は、薩摩鐔を所持したまま帰国してしまった。加えて、モスレ氏、ボーチャー氏以外の蒐集家も同様に収集した薩摩鐔をすべて母国に持ち帰ったために、日本に残る薩摩鐔は、少なくなってしまったのである。

このような状況で、松元氏がどのように収集したのかは不明である。

三 寄贈コレクションの紹介

今回の寄贈されたコレクションは、小田系の薩摩鐔で、初代直香、二代直教、三代直升、四代直堅と続く歴代の鐔が含まれ、時代的には元文頃から文政・天保頃までのものである。

(一) 小田系鐔工製作の年代（時期）と形の特徴

- ① 初代直香…宝暦頃（二七五一～一七六四）
【形状】やや大型、丸型、肉厚
- ② 二代直教…明和・天明頃（二七六四～一七八九、直香の子）
【形状】やや大型、丸型
- ③ 三代直升…天明・享和頃（二七八一～一八〇四）
【形状】やや小型、長丸型
- ④ 四代直堅…文政・天保頃（二八一八～一八四四）
【形状】やや小型、長丸型

(二) 小田鐔リスト（すべて鹿児島市指定文化財）

- ① 鉦豆図鐔 銘 薩州住小田氏直香
- ② 鉦豆図鐔 銘 小田直香作
- ③ 龍虎図鐔 銘 薩州住小田氏作 寶暦十三年癸未八月日
- ④ 瓢透図鐔 銘 薩州住小田氏作
- ⑤ 雲龍図鐔 銘 薩州住人藤原直香
- ⑥ 芦雁図鐔 銘 薩州住小田氏作
- ⑦ 鉦豆図鐔 無銘（小田直香）
- ⑧ 黄石公・張良図鐔 銘 薩州住小田直教彫之 天明八戊申十一月
- ⑨ 竹割虎図鐔 銘 薩州住小田直教彫之 寛政二年庚戌正月
- ⑩ 虎兒渡河図鐔 銘 小田直教彫之
- ⑪ 牡丹獅子図鐔 銘 小田直教彫之
- ⑫ 龍虎図鐔（附縁頭） 銘 小田直教彫之
- ⑬ 獅子の兒落とし図鐔 銘 小田直教彫之
- ⑭ 波龍図鐔 銘 小田直教彫之
- ⑮ 松樹群鶴図鐔 銘 小田直教作

⑩	御所車図罽	銘 薩州住小田直教作
⑪	龍虎図罽	無銘 (小田直教)
⑫	蓮蛙図罽	無銘 (小田直教)
⑬	砂くぐり龍図罽	銘 薩州住小田直昇彫
⑭	牡丹獅子図罽 (附縁頭)	銘 小田直昇彫之
⑮	瓢透図罽	無銘 (小田直昇)
⑯	大根図罽	無銘 (小田直昇)
⑰	卷雲図罽	銘 小田直堅彫之
⑱	波雲龍図罽	銘 元文三歳十二月吉日直香作之
⑲	牡丹獅子透罽	銘 薩州住小田直香作
⑳	雲龍図罽 (附縁頭)	無銘 (小田直教)
㉑	雲龍竹虎図罽	銘 小田直教彫之
㉒	牡丹透罽	銘 小田直教作
㉓	宇治川先陣透罽	銘 薩州住小田直教作
㉔	蓮に蛇透罽	無銘 (小田直教)
㉕	雲中百足図罽	銘 小田直昇彫
㉖	葡萄に栗鼠透罽	銘 薩州小田直昇彫
㉗	砂くぐり龍図罽 (附縁頭)	銘 小田直昇彫之
㉘	雲龍竹虎図罽	銘 小田直堅彫之
㉙	砂くぐり龍虎図罽	銘 小田直堅彫之
㉚	狸々透罽、波に壺透罽	銘 薩州住小田氏作
㉛	垂柳下群馬罽	無銘
㉜	雲龍図縁頭	銘 小田直昇彫之

(三) コレクション資料の主な画題

① 鉈豆なたまめ

刀豆とも書き、豆科の植物で、茎は蔓になる。夏になると淡い紫紅色の蝶に似た形の花を付ける。実は莢さやの中にあり、その莢は大きく平たく長くて形が刀に似る。鹿児島では、鉈豆のことをタツバゲ（鉈豆の別名／帯刀たてわきが訛った説あり。）といい、その形がくりと回って元に戻るところから、出陣しても無事帰還すると縁起をかついだ。押せば中から豆が飛び出しそうな写実的表現は、薩摩罽に特有のものである。

② 宇治川先陣

宇治川での、寿永三（一一八四）年の源義経と木曾義仲の合戦で、義経麾下の佐々木四郎高綱と梶原源太景季の先陣争いがテーマ。この合戦の様子は、好話題、好画題でよく扱われる。

③ 虎児渡河／虎の児渡し

虎の児渡しには、親子並んで泳ぎ渡る姿の場合と、子を背にして親が泳ぎ渡る場合の二種類がある。虎が子を産むと、三匹の内一匹は必ず獰猛で他の子を食べてしまうといい、この虎のことを彪ひょうと名付けた。そこで、親虎が子を渡す場合には、子と彪を常に親の目の届く所に置き、子と彪を一对一の状態にしない工夫をして渡すという面白い画題である。

④ 砂くぐり龍

龍の胴体が二、三か所消えて、罽の表から裏へ、そして裏から表へと見え隠れしながら、まるで砂の中から出てくるように見える造作で、薩摩では、「砂くぐり龍」といわれる。雲龍をはじめとして、薩摩罽の図案は、江戸時代中期に活躍した薩摩藩の御用絵師木村探元の影響を少なからず受けているといわれる。

⑤ 獅子の児落し

獅子は、生まれた子を深い谷へ投げ落とし、生き残ってはい上がってきたもののだけを育てるといふ言い伝えによることば。中国から伝わったもの。「獅子の児落し」は獅子の子育てとも言われる。似た図に「石橋」があり、間違うことがあるが、「石橋」の場合は、天高く細い石の橋が描かれる。

⑥ 黄石公・張良

中国の故事である。子房（のちの張良）が一人の老人（黄石公）に出会うことから始まる。老人との約束や苦難に立ち向かう勇気や知恵を試されながら、その人間性や素質等を認められ、老人から兵法の秘巻を授かる。これは、後に天下一の兵法家となり、漢の高祖を助けて天下を平らげた漢の張良の話である。

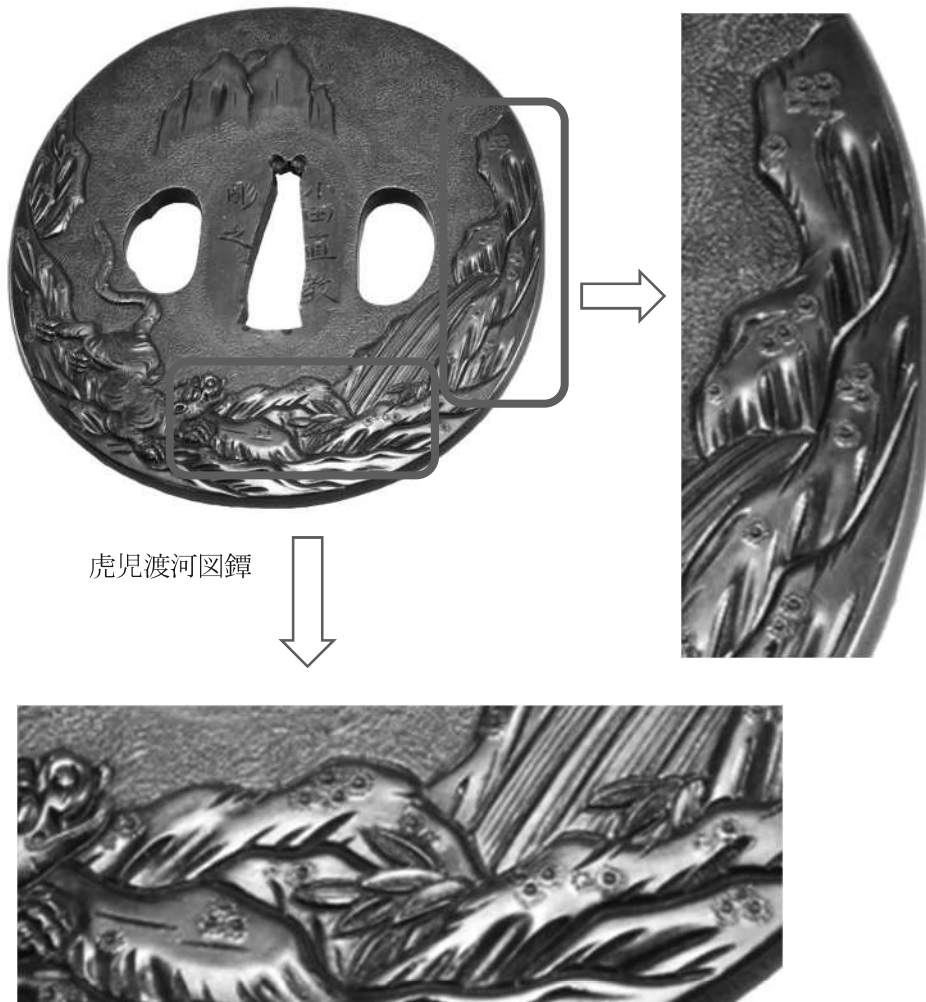
⑦ 竹割虎

虎は竹林に棲み、夜になると他の動物を捕獲すると言われ、竹割の虎は、文禄・慶長の役における虎狩りの話に由来すると言う。虎が竹林で遊ぶ図柄は他県にもあるが、小田派のものは、虎が竹を噛み割っているので、薩摩では「竹割いの虎」と呼ぶ。

（四）コレクション資料にみられる点苔

点苔とは、もともと水墨画の技法で、画面に律動感を与え、また画面全体の調子を整えるための重要な技法である。今回寄贈された鐔には、この点苔が多く施されているものがいくつかある。旧所蔵者松元氏は、とても大切に、鐔の点苔を数え、その数をメモに記している。例えば、⑩虎児渡河図鐔の表面に九四個、裏面に六三個、合わせて一三七個。点苔一つ当たりのサイズは、〇・五〜一・〇mmほどであり、拡大鏡を使わなければ、数えることはできない。点苔が多く見られるのは、鐔番号④⑨⑩⑬⑭⑮⑲⑳等であるが、中でも直教の点苔

は、細かく数多く散らすように施されている。例として直教の鐔⑩を紹介する。



おわりに

薩摩鐔をまとめて見る機会は、これまで多くなかった。先述したとおり、歴史的な背景もあり、国内に所在する数が少ないためである。そこで、今回寄贈を受けた三八点の実際のサイズ、彫金技術の巧みさや造形力をご覧いただきたいので、実物大の作品の写真と調書を掲載した。できるだけ多くの方に薩摩鐔の魅力が伝われば幸いである。

※ 鐔の掲載に当たっては『図録 薩摩拵』（黎明館 平成十七年）作成の際に、元黎明館主任学芸専門員中村憲氏が撮影した画像を使用させていただき、加えて元黎明館学芸課長山下廣幸氏の指導助言のもと、新たに撮影・編集を行いました。紙面を借りて感謝申し上げます。

註

- (1) 松元久雄「薩摩鐔について」（「薩摩刀と島津家伝来の名刀」黎明館、一九八七（昭和六十二）年）
- (2) 福永酔剣「薩摩の刀と鐔」一九六五（昭和四十）年・福永酔剣「図録薩摩の刀と鐔」一九七〇（昭和四十五）年
- (3) 福永酔剣「薩摩の刀と鐔」一九六五（昭和四十）年・福永酔剣「図録薩摩の刀と鐔」一九七〇（昭和四十五）年

（きりはら はやと 本館学芸課長）
（たけ こまき 本館学芸課資料調査編集員）

1	資料名	鉈豆凶鐺	銘	薩州住小田氏直香
	法量	縦7.7cm 横7.5cm 厚0.5cm	形状	豎丸型、鉄地、肉彫小透



2	資料名	鉈豆凶鐺	銘	小田直香作
	法量	縦8.2cm 横7.6cm 厚0.4cm	形状	豎丸型、鉄地、肉彫小透



3	資料名	龍虎図鐺	銘	薩州住小田氏作 寶曆十三年癸未八月日
	法量	縦8.2cm 横7.8cm 厚0.6cm	形状	豎丸型、鉄地、高彫象嵌、両櫃



4	資料名	瓢透図鐺	銘	薩州住小田氏作
	法量	縦8.2cm 横7.7cm 厚0.45cm	形状	豎丸型、鉄地、肉彫



5	資料名	雲龍図鐔	銘	薩州住人藤原直香
	法量	縦7.6cm 横7.1cm 厚0.5cm	形状	豎丸型、鉄地、高彫象嵌



6	資料名	芦雁図鐔	銘	薩州住小田氏作
	法量	縦8.8cm 横8.5cm 厚0.4cm	形状	豎丸型、鉄地、肉彫、両櫃（埋）



7	資料名	鉞豆図鐺	銘	無銘（小田直香）
	法量	縦7.8cm 横7.0cm 厚0.7cm	形状	豎丸型、鉄地、肉彫



8	資料名	黄石公・張良図鐺	銘	薩州住小田直教彫之 天明八戊申十一月
	法量	縦8.4cm 横8.0cm 厚0.4cm	形状	豎丸型、鉄地、肉彫透、色絵、金覆輪



9	資料名	竹割虎図鐔	銘	薩州住小田直教彫之
	法量	縦8.2cm 横7.7cm 厚0.4cm	形状	豎丸型、鉄地、肉彫透、色絵、両櫃

保存刀装具鑑定書：豎丸型、鉄磨地、肉彫地透、金象嵌、丸耳、両櫃孔



10	資料名	虎児渡河図鐔	銘	小田直教彫之 寛政二年庚戌正月
	法量	縦8.3cm 横8.0cm 厚0.45cm	形状	豎丸型、赤銅石目地、高彫、両櫃



11	資料名	牡丹獅子図鐺	銘	小田直教彫之
	法量	縦8.3cm 横8.0cm 厚0.8cm	形状	豎丸型、赤銅石目地、高彫色絵、両櫃



12	資料名	龍虎図鐺（附縁頭）	銘	小田直教彫之
	法量	鐺：縦7.9cm 横7.4cm 厚0.4cm 頭：縦3.6cm 横2.0cm 厚1.1cm 縁：縦3.8cm 横2.2cm 厚1.2cm	形状	豎丸型、赤銅石目地、肉彫色絵、両櫃



13	資料名	獅子の児落とし図鐺	銘	小田直教彫之
	法量	縦8.3cm 横7.8cm 厚0.7cm	形状	豎丸型、赤銅石目地、高彫金色絵、片櫃



14	資料名	波龍図鐺	銘	小田直教彫之
	法量	縦7.8cm 横7.3cm 厚0.3cm	形状	豎丸型、赤銅石目地、肉彫色絵、両櫃



15	資料名	松樹群鶴図鐺	銘	小田直教作
	法量	縦8.0cm 横7.8cm 厚0.3cm	形状	豎丸型、鉄地、肉彫色絵

特別貴重小道具認定書：鉄地丸形肉彫地透象嵌



16	資料名	御所車図鐺	銘	薩州住小田直教作
	法量	縦8.5cm 横8.1cm 厚0.4cm	形状	豎丸型、鉄地、肉彫色絵小透



17	資料名	龍虎図鐔	銘	無銘（小田直教）
	法量	縦8.1cm 横7.8cm 厚0.4cm	形状	豎丸型、赤銅地、肉彫色絵



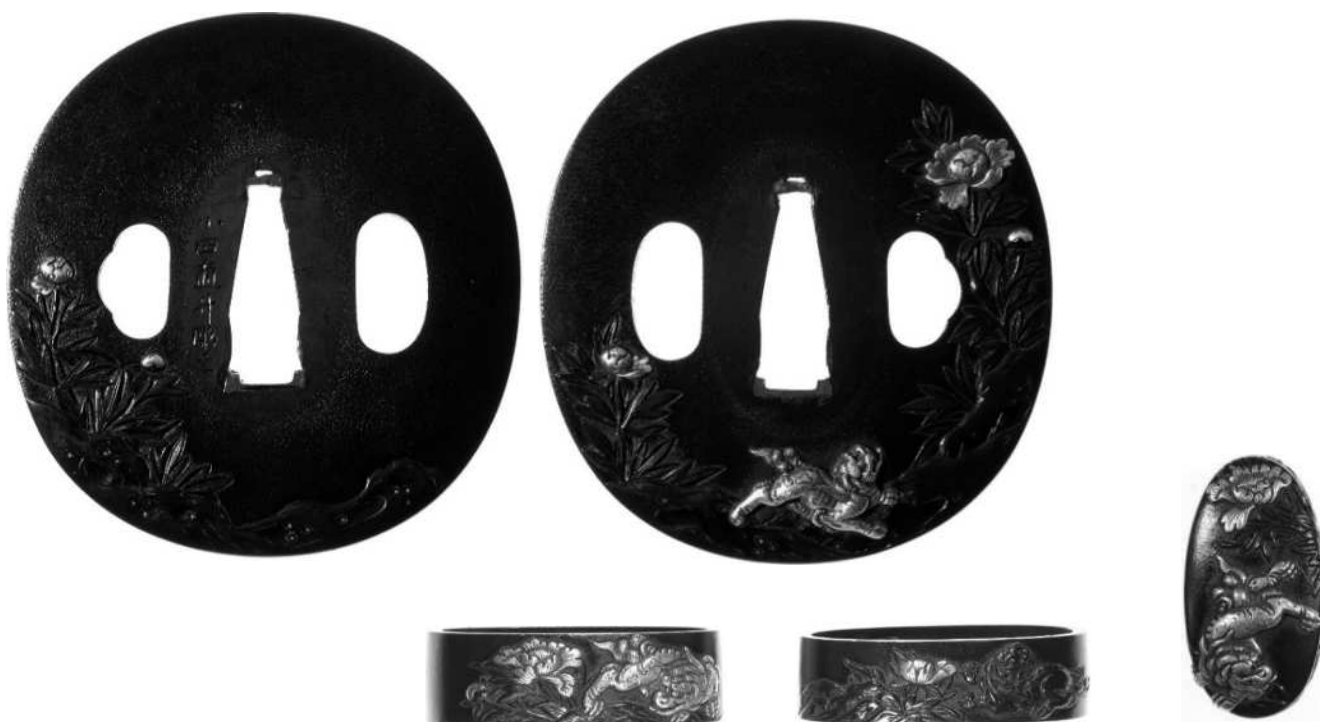
18	資料名	蓮蛙図鐔	銘	無銘（小田直教）
	法量	縦8.2cm 横7.7cm 厚0.4cm	形状	豎丸型、赤銅石目地、肉彫象嵌、両櫃



19	資料名	砂くぐり龍図鐔	銘	薩州住小田直升彫
	法量	縦7.6cm 横7.2cm 厚0.5cm	形状	豎丸型、鉄石目地、肉彫小透



20	資料名	牡丹獅子図鐔（附縁頭）	銘	小田直升彫之
	法量	鐔:縦7.2cm 横6.7cm 厚0.5cm 頭:縦3.5cm 横1.9cm 厚1.1cm 縁:縦3.9cm 横2.4cm 厚1.4cm	形状	豎丸型、赤銅石目地、肉彫色絵、両櫃



21	資料名	瓢透凶鐔	銘	無銘（小田直升）
	法量	縦7.7cm 横7.1cm 厚0.4cm	形状	豎丸型、鉄地、肉彫



22	資料名	大根凶鐔	銘	無銘（小田直升）
	法量	縦7.8cm 横7.2cm 厚0.4cm	形状	豎丸型、鉄地、肉彫、象嵌小透



23	資料名	卷雲図鐺	銘	小田直堅彫之
	法量	縦7.8cm 横7.3cm 厚0.3cm	形状	豎丸型、鉄地、片切彫小透



24	資料名	波雲龍図鐺	銘	元文三歳十二月吉日直香作之
	法量	縦7.7cm 横7.3cm 厚0.3cm	形状	豎丸型、鉄地、肉彫地透



25	資料名	牡丹獅子透鐺	銘	薩州住小田直香作
	法量	縦8.5cm 横8.2cm 厚0.5cm	形状	豎丸型、鉄地、高肉彫地透、金色絵、金覆輪



26	資料名	雲龍図鐺（附縁頭）	銘	無銘（小田直教）
	法量	鐺：縦8.0cm 横7.7cm 厚0.35cm 頭：縦3.7cm 横1.9cm 厚0.9cm 縁：縦3.9cm 横2.3cm 厚1.3cm	形状	豎丸型、赤銅石目地、肉彫、両櫃



27	資料名	雲龍竹虎図鐺	銘	小田直教彫之
	法量	縦7.9cm 横7.4cm 厚0.5cm	形状	豎丸型、鉄地、高彫、両櫃



28	資料名	牡丹透鐺	銘	小田直教作
	法量	縦7.8cm 横7.5cm 厚0.4cm	形状	豎丸型、鉄地、高彫地透、金象嵌



29	資料名	宇治川先陣透鐔	銘	薩州住小田直教作
	法量	縦8.5cm 横8.2cm 厚0.5cm	形状	豎丸型、鉄地、肉彫地透、金象嵌、両櫃



30	資料名	蓮に蛇透鐔	銘	無銘（小田直教）
	法量	縦8.8cm 横8.5cm 厚0.4cm	形状	豎丸型、鉄地、高彫地透



31	資料名	雲中百足図鐶	銘	小田直昇彫
	法量	縦7.6cm 横6.9cm 厚0.4cm	形状	豎丸型、鉄地、肉彫、金色絵、両櫃



32	資料名	葡萄に栗鼠透鐶	銘	薩州小田直昇彫
	法量	縦7.3cm 横6.5cm 厚0.4cm	形状	豎丸型、鉄地、高彫地透



33	資料名	砂くぐり龍図鐔（附縁頭）	銘	小田直昇彫之
	法量	鐔：縦7.4cm 横6.9cm 厚0.5cm 頭：縦3.5cm 横1.8cm 厚0.9cm 縁：縦4.4cm 横2.2cm 厚1.3cm	形状	豎丸型、鉄地、高彫地透



34	資料名	雲龍竹虎図鐔	銘	小田直堅彫之
	法量	縦8.0cm 横7.2cm 厚0.3cm	形状	豎丸型、鉄地、肉彫、両櫃



35	資料名	砂くぐり龍虎図鐔	銘	小田直堅彫之
	法量	縦7.2cm 横6.4cm 厚0.3cm	形状	竪丸型、鉄地石目地、肉彫金色絵、両櫃



36	資料名	猩々透鐔（波に壺透鐔）	銘	薩州住小田氏作
	法量	縦7.0cm 横7.0cm 厚0.4cm	形状	真丸型、鉄地、肉彫地透、両櫃、丸耳

保存刀装具鑑定書：真丸型、鉄地肉彫地透、両櫃孔、丸耳



37	資料名	垂柳下群馬鐔	銘	無銘
	法量	縦8.3cm 横7.9cm 厚0.4cm	形状	豎丸型、鉄地、肉彫金象嵌、両櫃



38	資料名	雲龍図縁頭	銘	小田直升彫之
	法量	頭:縦3.8cm 横2.05cm 厚0.8cm 縁:縦3.9cm 横2.2cm 厚1.4cm	形状	赤銅、肉彫

